

平成 2 1 年度三郷市上水道事業報告書

1. 概 況

(1) 総括事項

イ 事業全般の状況

事業経営の面では、有収水量が昨年度と比べやや増加し、その結果、給水収益も増加しました。また、経営の安定度を示す総収支比率（総収益÷総費用×100）は前年度比 7.9 ポイント増の 100.9% となるなど、経営状況が改善されました。

平成 22 年度完成予定の北部浄水場配水池更新整備事業を行っており、その他土地区画整理事業や公共下水道整備事業などに伴う老朽管の布設替及び布設工事も引き続き進めております。必要な施設の耐震化事業を遂行しつつ効率的な事業運営に取り組んでまいります。

ロ 給・配水の状況

当年度における給水人口は、132,299 人で前年度比 1,015 人増加しました。水需要につきましては、総配水量が前年度比 1.2% 増の 15,679,250 m³、有収水量は 1.4 % 増の 14,490,876 m³で、有収率は 92.4 % となりました。

有収水量の大部分を占める一般家庭用は、0.8 % 増の 13,626,979 m³でした。

ハ 収益的収支の状況

収益的収入（事業収益）は、2,111,029,627 円で、前年度比 1.9 % の増となり、そのうち全体の 9 割以上を占める給水収益は、1,998,162,842 円で前年度比 0.6 % の増となりました。

これに対し収益的支出（事業費用）は、2,054,881,811 円で、前年度比 6.0 % の減となりました。

主な支出としては、受水費が 845,856,081 円で前年度比 1.0 % の増、委託料は 195,581,851 円で前年度比 5.0 % の減、修繕費は 46,118,300 円で前年度比 3.3 % の増、動力費は 46,906,789 円で前年度比 15.7 % の減、減価償却費は 457,391,782 円で前年度比 6.8% の増、資産減耗費は 56,874,683 円で前年度比 62.3% の減、水道料金の不納欠損を主なものとする過年度損益修正損は 4,914,920 円で前年度比 16.1% の減となりました。

これにより、当年度の収益的収支は消費税及び地方消費税 39,064,764 円を差し引いた結果 17,083,052 円の純利益を出すことができました。

これに前年度繰越利益剰余金 295,227,463 円を加えた 312,310,515 円が、当年度末処分利益剰余金になりますが、法の規定により減価積立金に 860,000 円を積み立て残り 311,450,515 円を翌年度に繰越いたします。

ニ 資本的収支の状況

資本的収入は、588,005,069 円で前年度比 0.04 % の減となりました。

この収入の内訳は、企業債 197,500,000 円（前年度比 97.5% の増）、分担金 280,350,000 円（前年度比 4.3% の増）、工事負担金 48,259,069 円（前年度比 77.0% の減）、国庫補助金 61,896,000 円（前年度比 523.1% の増）となります。

これに対し資本的支出は、1,317,132,086 円で前年度比 16.5 % の増となりました。

この支出の内訳は、建設改良費 1,239,410,309 円（前年度比 14.0% の増）、企業債償還金 77,721,777 円（前年度比 77.4% の増）となります。

その結果、資本的収入額が支出額に不足する 729,127,017 円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 38,493,353 円、建設改良積立金 154,000,000 円、過年度分損益勘定留保資金 536,633,664 円で補てんいたします。

なお、建設改良費 336,524,500 円につきましては、継続事業に伴って支払い義務が生じなかったもの、また、関係機関と工程を調整する中で、年度を越えて工期を設定せざるを得なかったことにより、予算繰越措置をしました。